

校長室だより

令和3年(2021年)
4月16日発行(No.2)
柏原市立堅下北中学校
校長 坂本 篤俊

～物事の優先順位！～

新型コロナウイルス感染状況の大阪モデルが赤信号です。先日、大阪府の1日の罹患者が1,000人を越えました。再度、通天閣や万博公園の太陽の塔が赤くライトアップされてしまいました。若い世代の罹患者が増えているデータもあります。報道で、小中高等学校で部活動の活動休止がでました。15日中に実施されました。大会やコンクールが行われる場合は、一定の時間活動をしますが、無い場合は部活動休止になります。期間は5月5日までですが、状況によっては延長も考えられます。

学校としては、子ども達の生命を第一にとらえて対応します。先ず、社会の一員として、何を優先しなければならないかを冷静に判断し、私たちの取組がこの先いい方向に向かうと信じて対応します。罹患者の急激な増加は、2週間程度前の状況が影響しているのでしょうか。反対に2週間後の減少を見据えると、今、何をしないといけないのか、大人と共にみんなで考えないといけません。

首長が具体的の方針を出せば、それを信じてみんなで取り組む。自分に何ができるか具体的に考えて取り組む。今後も、コロナと共に生活をしますが、慣れてしまうのではなく、中学生の本来の取組(授業、学校行事、部活動等)が一日も早く出来るようにしないといけません。日常生活のルーティンは、目標を達成するための基盤です。安心できる基盤に取り組みを積み重ねましょう。

本校では、一例として、合唱を機会があるごとに取り組んでいました。これは、音楽の授業だけでなく、日々の生活の中でしっかり声を出すことが出来ているという基盤があるから可能なのです。今は、大きな声を出す機会がないので、すぐに合唱しようとしても出来ません。同じようなことが様々なところにあります。また、顔の表情は声を発しなくてもいろんなことを発信します。嬉しい、悲しい、

困っている、興味がある等、しかし、マスクをしているので分かりづらいのが正直なところ。早く、マスクなしで表情豊かな皆さんの笑顔溢れる学校にしたいです。学習面でも、共に考えを言い合える環境が、個々の考えを深めることになり、興味関心を高めます。そして、困っている人にも優しさを与えることに繋がるでしょう。

何度も言いますが、私たちの今の行動が2週間後の状況に反映されます。誰かに怒られるからしないのではなく、「なぜ」を理解して、行動できる人になりましょう。そして、2度とない中学校生活を前向きに過ごしましょう。

～罹患が分かった時！～

新型コロナウイルスに罹患しないための行動として、マスクの着用、手洗い、手指消毒の徹底、校舎の換気、個々の健康観察等を行っています。

●濃厚接触者になった時(保健所から連絡が入る場合が多いです)

医療機関でPCR検査をうけます。学校へも連絡ください。

(下記の連絡や聞き取りは原則保健所が行います)

【陽性の時】自宅待機(または入院)の期間を告げられます。

発症日の2日前までさかのぼって、濃厚接触者を確認されます。

本人は、回復に専念します。

【陰性の時】保健所の指示の下、自宅待機になり、期間を告げられます。

※保健所は、濃厚接触者の確認と該当者への連絡とPCR検査受検の指示を出します。

※濃厚接触者数状況や感染防止対策の実施状況によって、学校(学年や学級等)を休校にするかどうか判断されます。

※学校の大規模な消毒が必要な時は休校日等を利用して行います。

※休校の時の休業期間等は中学校よりお知らせします。

また、連絡先等の情報は保健所と共有する場合があります。ご了承ください。尚、感染に対して大事をとって学校を休む場合は、出席停止として対応します。不要不急の外出を控え、健康管理に留意しましょう。